

### 分館活動報告

## 楽しかった分館活動

#### 一区 薩摩上人供養祭

分館長 中村 茂夫

薩摩上人供養祭を四月三日、星ヶ丘の墓碑前で区民、各区関係者と敬愛社の皆さまを含めて約七十五名が参加して行われました。敬愛社講員の読経の中、ご焼香をしてそれぞれが上人の遺徳を偲ぶことができました。

この供養祭は、上人が亡くなられた二百五十年後に、一区(下の原)で墓碑を建立いたしました。その後、現在地に移転修復して、供養祭を分館に移管し、以後毎年実施しています。

続いて万治の石仏供養を行った後、下諏訪町の文化財である十王像の念仏供養を、数珠を廻しながらご祈禱いたしました。下の原及び近隣地区間にあった争いごとを収めた上人を偲び、また地区の歴史を学ぶことにより、今後の地区間友好を推進するきっかけとなったと思います。

無事に文化行事の継承を果たせて、役員一同が喜びと安堵感を味わうことができました。



#### 二区 みんなで歌おう心の歌 〜日本の歌百選〜

分館長 渋谷 洋樹

二区内の四カ所の集会所(平和館・城の腰館・青塚館・東明館)を七月から十二月の間に巡回し、一か所二十五曲の歌を選んで、全部で百曲の歌を歌う会を開きました。集会所ごとに、きれいに印刷された歌集が配られて、それを見ながら歌います。また、一曲ごと、歌う前にその歌の発祥、歌手やその時代の話題などが披露されて、選んだ人の思い出のナレーションがあります。これがまたすばらしく、思い出に浸ります。

指揮と伴奏に合わせて、みんな思い切り大きな声で、心を合わせて歌います。集会所が歌声に包まれます。歌うと、またそれぞれの思い出がよみがえります。

特別企画の時もあり、アコーデオンの演奏や伴奏、十二月にはクリスマスの企画もありました。

みなさんと楽しい時間を過ごし喜びと満足した笑みがこぼれていました。



#### 三区 史跡探訪「信玄伝説」

分館長 諏訪 敏和

家庭教育講座の一環として、史跡探訪「信玄伝説」をテーマに六月十二日に、承知川橋石を起点に慈雲寺までを、諏訪湖博物館・赤彦記念館の宮坂館長にご案内いただきました。



土田墓地入口の弥勒菩薩、秋宮での信玄の埋蔵金伝説、綿の湯跡での下諏訪宿の往時の繁華の様子の説明を経て、伏見屋邸では小憩をとりながら町外における信玄にまつわる伝承や伝説について、いくつかお話をうかがいました。その後慈雲寺参道石段を昇り、矢除石、天桂の松、本堂棟木にある梶の葉の神紋と武田菱の紋の所縁について説明を受けました。

武田信玄が諏訪明神を崇敬すると共に、諏訪の民衆の精神やその風土をないがしろにせず執政したことが、多くの伝承や逸話を残し、当地に息づいていることを前提とすれば、地域の歴史を学ぶことは、地域の文化を育み伝承していく意義深いことだと思えます。

#### 四区 ボウリング大会

分館長 高木 亮一

毎年恒例となっている区民ボウリング大会が、十一月二十日ニューハイボウリング諏訪にて開催されました。

競技には、子供から大人まで区民四十一名が参加し、高スコアをねらう参加者や、久しぶりにボウリングの玉に触った者など、様々でした。ストライクやスペアが出るたびに、各レーンから歓声があり、子どもたちも楽しみなながらも真剣に投げていました。和気あいあいとした中で競技が進行しました。



競技終了後、表彰式が行われ、一位からブービー賞までの発表で盛り上がりました。プレー時間は長くありませんでしたが、区民の方々が親睦を深めていく、よい一日となりました。

#### 五区 しめ飾り・ミニ門松講習会

分館長 小野 正文

二十三年度の高木区の公民館活動も、例年実施している恒例の「しめ飾り・ミニ門松講習会」で終了しました。高齢者クラブの皆さんの協力により始まったこの講習会ですが、近年はミニ門松作りも好評で、約四十名の区民が、新しい年の始まりに向けそれぞれの思いを込めて、各人各様のしめ飾り・ミニ門松作成を楽しみました。

今回の開催にあたっては、材料のわらを何とか手に入れることができましたが、今後は非常に困難な状況になってきているようです。

コンバインを使った稲刈りでは、わらが小さく裁断されてしまったため、しめ飾りには使えないとのこと。また高齢化などで、手作業で稲を刈ってくれる方がいなくなっているのが、その理由のようです。

こうした状況の下、今後の開催については危ぶまれますが、伝統あるしめ飾り作りを何とか継承できればと願っています。

